



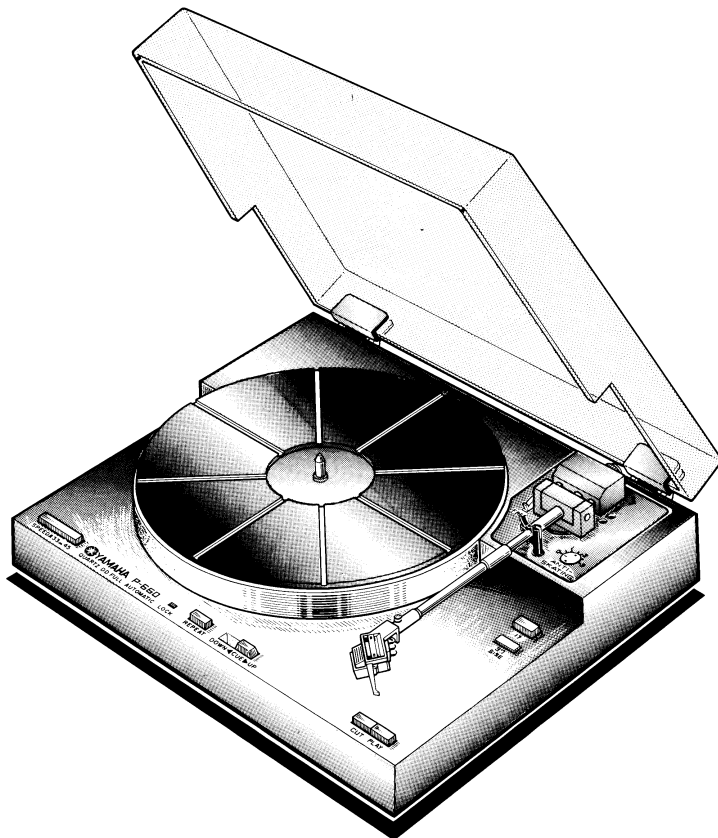
YAMAHA

QUARTZ D.D.

Full AUTOMATIC PLAYER

P-650

取扱説明書



このたびは、ヤマハステレオレコードプレーヤーP-650をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

P-650の優れた性能を十分に発揮させると共に、長年支障なくお使いいただくために、この取扱説明書をご使用の前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。

目次

特長	1
ご使用になる前に次のことにご注意ください	2
組み立て	3
各部の名称と機能	4
トーンアームの調整	5
キューイングスイッチの使い方・針交換のしかた	6
アンプへの接続・レコード演奏のしかた	7
仕様・ブロックダイアグラム	8
故障と思われるときには	9
サービスのご依頼について	10

特長

- プレーヤーの心臓部のモーターに回転精度の極めて高いクォーツPLLダイレクトモーターを採用し、またクォーツPLLでも制御しきれない微妙な負荷変動や回転ムラまで、重量1.6kgの慣性モーメントの大きなターンテーブルで吸収し滑らかな回転を得ています。
- ダストカバーを閉じたままでもコントロール可能な、フロントオペレーションのフルオートマチックコントロール機能を装備しています。
- 優れたトラッキングアビリティを持ち、無共振構造に設計されたストレートアームは、装着されるカートリッジの性能を十分に引き出します。

ご使用になる前に次のことにご注意ください



保管してください

この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに保管してください。



設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、音質が悪化したり故障などの原因となりますのでご注意ください。

- ①直射日光の当たる場所や暖房器具のそばなど極端に暑いところ(周囲温度40℃以下でご使用ください)
- ②温度の特に低いところ(周囲温度5℃以上でご使用ください)
- ③湿気やホコリの多い所(湿度20%~90%以内でご使用ください)



セットのお手入れには

キャビネットをベンジン、シンナー系の液体で拭いたり、化学ぞうきんを使ったり、すぐそばでエアゾールタイプの殺虫剤を散布することは避けてください。ベンジンやシンナー類がつくと、キャビネットが汚れたり変色したりします。

また本機にレコードスプレーを吹きかけることのないよう充分ご注意ください。

お手入れは、必ず乾いた布で拭いてください。



取り扱いはいねいに

物をぶつけたり、落したりの乱暴な取扱いは製品に悪い影響を与え、性能を劣化させます。ていねいにお取り扱いください。



組み立てるときには

本機はフルオートマチックのプレーヤーですから組み立て時にはこの取扱説明書をよく読んで、正しい手順で行なってください。また、電源プラグがコンセントから抜けた状態を確認してから行なってください。



振動のない静かな所を

ハウリングや針とびの原因になりますので振動の多い場所やスピーカーシステムの近くには置かないでください。台もしっかりしたものを選んでください。



古いレコード針は使わない

針先の寿命は使用するレコードの状態によって異なりますが、ダイヤ針で200~300時間使用したら交換してください。針先が摩耗すると音が歪んだり、ビリついたりして、レコードを痛める原因になります。



アンプから離して

接続するオーディオアンプと並べて設置する場合には、誘導ハム防止のためアンプの電源トランス側と本機のトーンアーム部をできるだけ離して設置してください。



水平に保つこと

プレーヤーの水平が保たれていませんと、回転速度やトーンアームの動きに悪影響を与えます。必ず水平に設置してご使用ください。



電源電圧はAC100V

定格電圧100Vでご使用ください。また、電源コードは大切にお使いください。特に、コンセントからはずすときは、必ずプラグを持って抜いてください。※本機は国内電源AC 100V、50/60Hzでお使いください。この電圧以外でのご使用は保証できかねます。



落雷に注意

落雷のおそれのあるときは、早めにコンセントから電源のプラグを抜きとってください。



もう一度調べてください


故障かなと思ったら、まずP9の「故障と思われるときには」をご覧ください。意外なところで操作を誤っていることがあります。



保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、充分ご注意くださいようお願いいたします。

これは電子機械工業
会「善のエチケット」
キャンペーンのシン
ボルマークです。



音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間に小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適当な音量を心がけ、窓を閉めたりするのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

組み立て

組み立ての前に電源プラグがコンセントから抜けていることを確認してください。組み立てが全部終わってから電源プラグをコンセントに差し込んでください。

■ターンテーブルの取り付け

1. 図1のようにターンテーブルの2つの穴に指を入れて、センターシャフトに静かに差し込んでください。(ターンテーブルを回転させたとき、ターンテーブル周辺が上下に振れることのないようしっかり差し込んでください。)
2. ターンテーブルの上にゴムシートを載せてください。

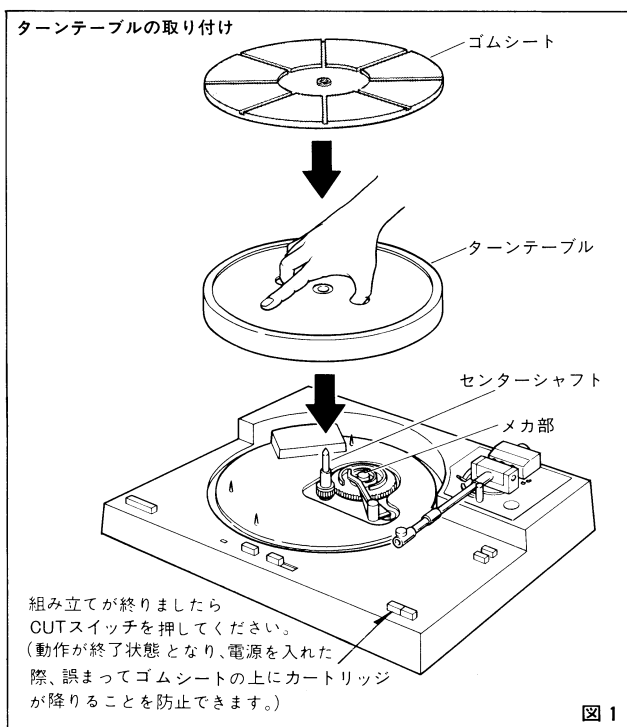


図1

■トーンアームの組み立て

1. 図2のようにメインウェイトの黒い部分を矢印の方向にまわしながらトーンアーム尾部より押し込みます。
2. メインウェイト内部のラセン溝とアーム尾部のクリックストッパーがかみ合い、メインウェイトはアーム正面から見て反時計方向(左)にまわすと前へ、時計方向(右)にまわすと後ろへとスムーズに移動するようになります。

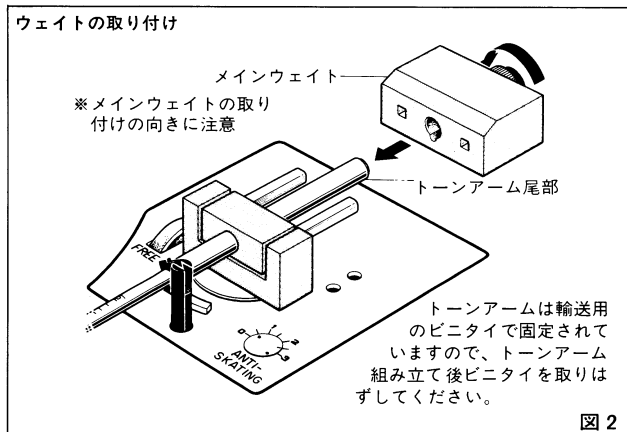


図2

3. カートリッジの付いたヘッドシェルを、シェルのロックネジをゆるめてアーム先端へ差し込み、ロックネジを締めて固定します。このときシェル内部のピン4本を痛めないようにまっすぐにして軽く押し込んでください。(図3)

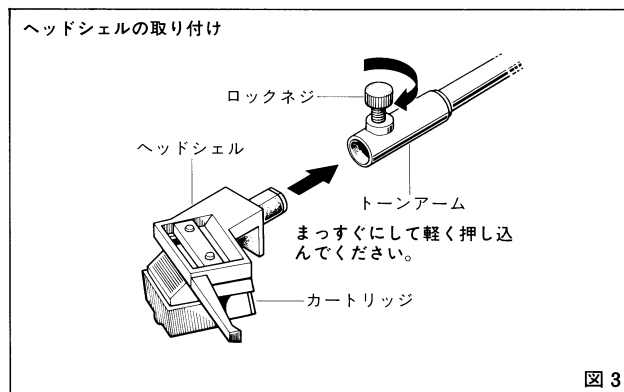


図3

■ダストカバーの取り付け

1. ダストカバーヒンジを図4のようにダストカバー後面2ヶ所のくぼみに合わせ、それぞれ差し込んでください。(矢印①)
2. 次に、キャビネット後面左右の受部に左右同時に差し込みます。(矢印②)
3. ダストカバーは着脱可能です。取りはずす場合は逆に行なってください。

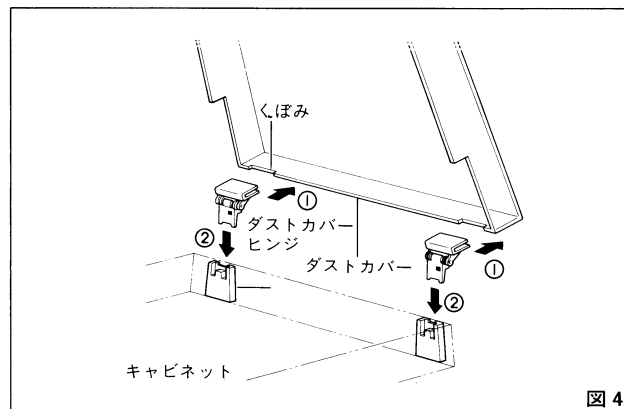


図4

■付属品

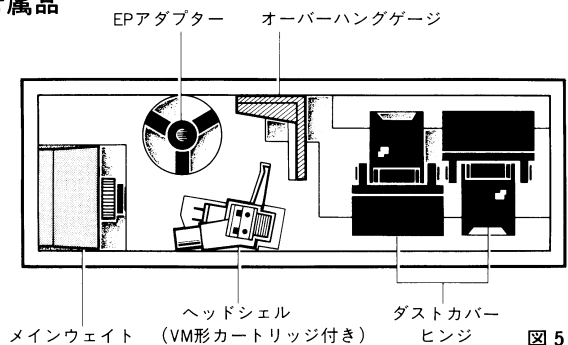
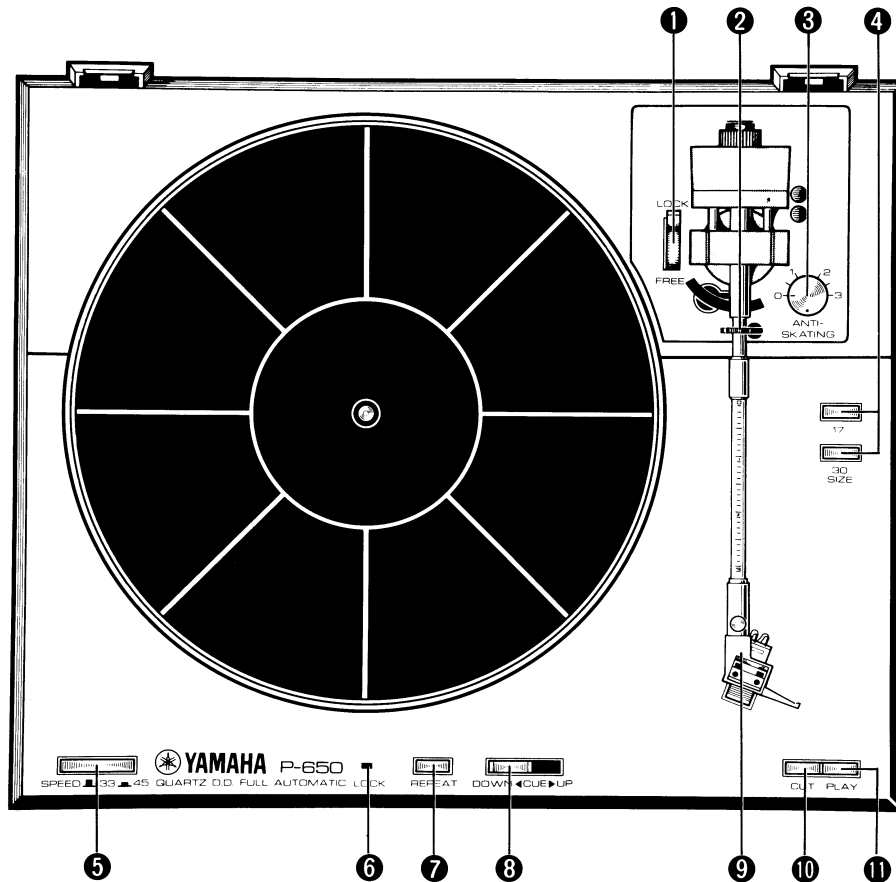


図5

各部の名称と機能

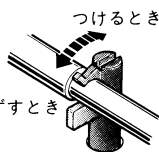


① ロックレバー

FREEにすると±2.5mmの範囲でアームの高さが調整できます。レコードの上に静かに針を降ろしアームが水平になるように調整し、LOCKしてください。

② アームレスト／アームロック

運搬時には必ずアームレストにトーンアームを戻し、ロックしてください。はずすとき



③ ANTI-SKATING(アンチスケーティング)

スプリングレバー式です。調整はP.5を参照してください。

④ レコードサイズ切り換えスイッチ

使用するレコードに合わせて押してください。30cm LP盤では30、ドーナツ盤などでは17です。

⑤ SPEED(スピード)スイッチ

回転数切り換えスイッチです。

- ・回転数33 $\frac{1}{3}$ rpmのレコードを演奏するときは「**33**」(スイッチが出た状態)にします。
- ・回転数45rpmのレコードを演奏するときは「**45**」(スイッチを押した状態)にします。

⑥ LOCK(ロック)インジケータ

モーター(ターンテーブル)の回転数がクォーツPLLにより定常回転に達し、ロックされたことを確認できます。

⑦ REPEAT(リピート)スイッチ

同じレコードを繰り返して聴く場合にリピートスイッチを押しておきます。

⑧ CUEING(キューイング)スイッチ

針先(トーンアーム)をレコード面から滑らかに上げ下げさせるオイルダンプ方式です。

⑨ ヘッドシェルとカートリッジ

VM形カートリッジを装着した、P-650専用のヘッドシェルです。トーンアームパイプに差し込むときにはコネクターを痛めないようにまっすぐ静かに押し込んでください。

⑩ CUT(カット)スイッチ

レコード演奏を途中でやめたいとき、このスイッチを押しますと、トーンアームが上がりアームレストに戻り、モーターの回転も止まります。

⑪ PLAY(プレイ)スイッチ

ターンテーブルにレコードを載せ、このスイッチを押すとオートプレイが開始されます。キューイングスイッチが**▶UP**にある場合は、針先が降りませんので、オートプレイの時は必ず**DOWN◀**にしてください。

トーンアームの調整

① トーンアームのバランス調整

カートリッジの取り付けとトーンアームの組み立てが完了しましたら、バランス調整をします。電源プラグをコンセントから抜き、ターンテーブルがまわらないようにしてください。

また、この調整をするときは、アンチスケーティングを0に合わせておいてください。

1. キューイングスイッチを左側にセット（トーンアームダウンの状態）して、アームリフターを下げてください。
2. 針圧調整用ウェイトの手前側をトーンアームの“0”線（一番奥の位置）に合わせておきます。（図6）
3. カートリッジの針カバーをはずしてから、アームロックをはずしトーンアームをアームレストから引き出します。
4. フィンガーフックから軽く指をはなしてトーンアームの水平バランスを調べます。ヘッドシェル側が重ければ頭部が下がります。
5. トーンアームが完全に水平になるように図7を参考にし、メインウェイトを前後させ調整します。
6. 完全にバランスがとれましたら、トーンアームをアームレストに戻しておきます。

② 針圧調整

1. 水平バランスがとれたときのメインウェイトの位置を動かさないようにしてください。
2. 付属のカートリッジの適正針圧は2.0gですから、針圧調整用ウェイトの手前側がトーンアームの針圧目盛り2.0の位置にくるまでゆっくり移動させてください。（図8）

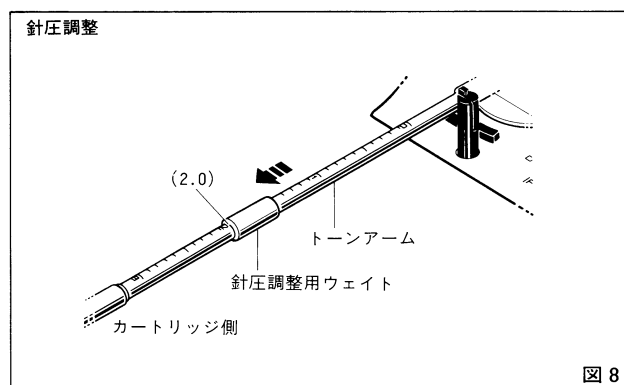


図8

③ アンチスケーティングの調整

付属のカートリッジの適正針圧が2.0gですから、図9のようにアンチスケーティングのつまみをゆっくり右にまわしてゆき、2.0の目盛りに基線を合わせてください。

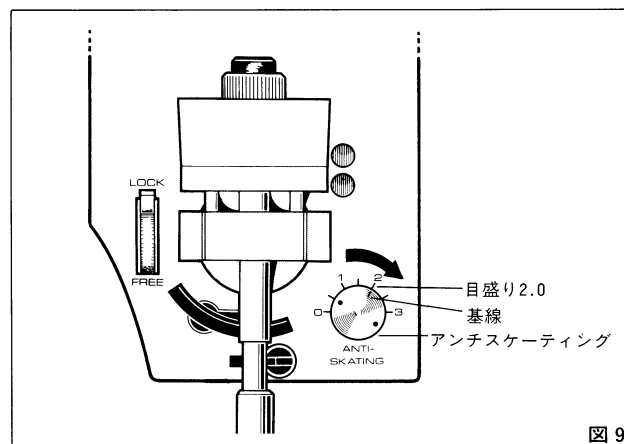


図9

④ トーンアームの高さ調整

出荷時には付属のカートリッジに合わせて高さ調整されていますので、カートリッジをそのまま使う場合は調整の必要はありません。

輸送中の振動で高さが変わったり、カートリッジを交換した場合などで、トーンアームの水平がとれなくなったときには、トーンアームの高さを調整してご使用ください。

1. 電源コードをコンセントから抜いておきます。
2. ターンテーブルにレコードを載せ、針先をレコード面に静かに降ろします。
3. レコード面とトーンアームパイプの平行状態を横から見て確認してください。
4. キューイングスイッチで針先をアップさせます。
5. ロックレバーをFREEにし、トーンアーム全体を静かに上下させ調整し、LOCKします。

バランス調整

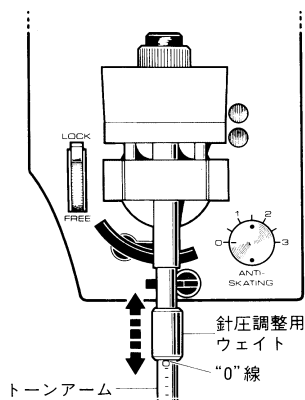
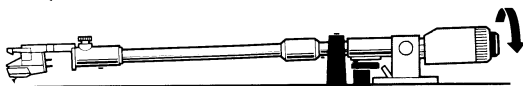


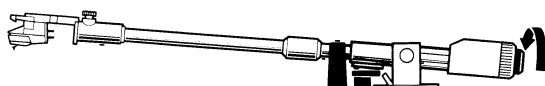
図6



頭部が重すぎる（矢印方向にウェイトをまわす）



尾部が重すぎる（矢印方向にウェイトをまわす）



完全にバランスのとれた状態

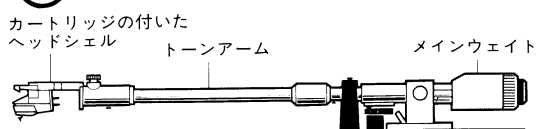


図7

キューイングスイッチの使い方・針交換のしかた

6. ふたたび針先をレコード面に降ろし水平を確認します。一度で水平が決まらない場合は、4～6の調整をくり返し行ないます。

※この調整を行なうときは、針先やレコードを傷つけないよう慎重に操作してください。

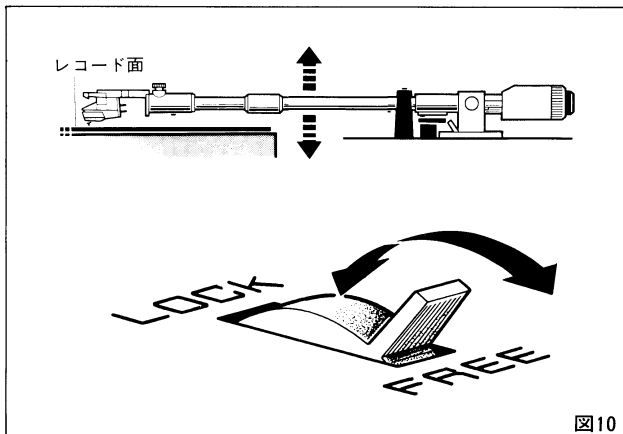


図10

■キューイングスイッチの使いかた

本機は、通常キューイングスイッチはDOWN◀にしておき、オートプレイで手を触れることなくトーンアームの昇降ができますが、レコード演奏を一時中止したい場合や、マニュアル動作で曲の途中などへ降ろしたい場合などには、キューイングスイッチで滑らかに針先を上げ下げでき、レコードや針先を傷つける心配がありません。

1. 針を上げるとき

キューイングスイッチを▶UPへセットしてください。針先はレコード面から離れます。
※ロックが不完全なときは、針がまた降りてしまいますのでご注意ください。

2. 針を降ろすとき

キューイングスイッチをDOWN◀へセットしてください。針先はなめらかにレコード面へ降り演奏を開始します。

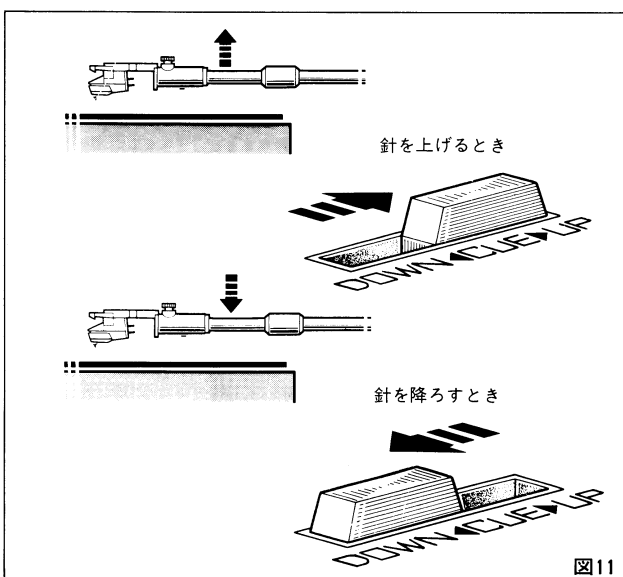


図11

■針交換のしかた

針交換は図12のように矢印方向に針部を引き抜き、取り付けは逆に行ないます。交換針はN-6700をご使用ください。針の交換時期は200～300時間使用後です。レコードを痛めないためにも早めに交換するようにしてください。

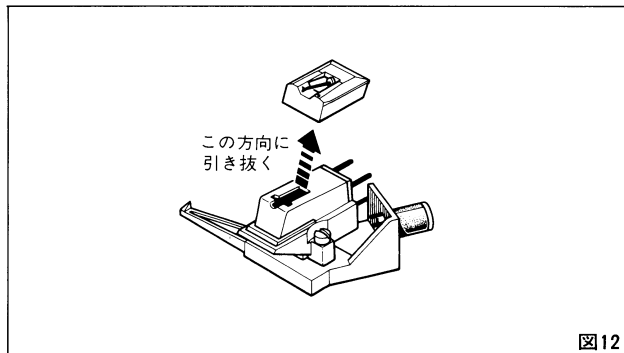


図12

■カートリッジの取り付け

本機にはVM形カートリッジが付属していますが、このほかに自重2.5～10gのカートリッジを装着することができます。

1. ヘッドシェルのリード線をカートリッジの各ピンに正しく接続してください。
2. カートリッジをネジでヘッドシェルに仮止めします。
3. 付属のオーバーハングゲージ⊕印に針先を合わせ、オーバーハングを合わせた後、カートリッジを固定します。

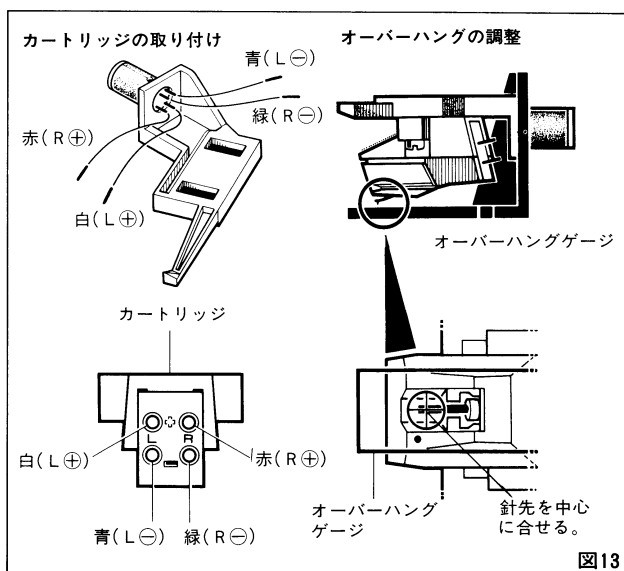
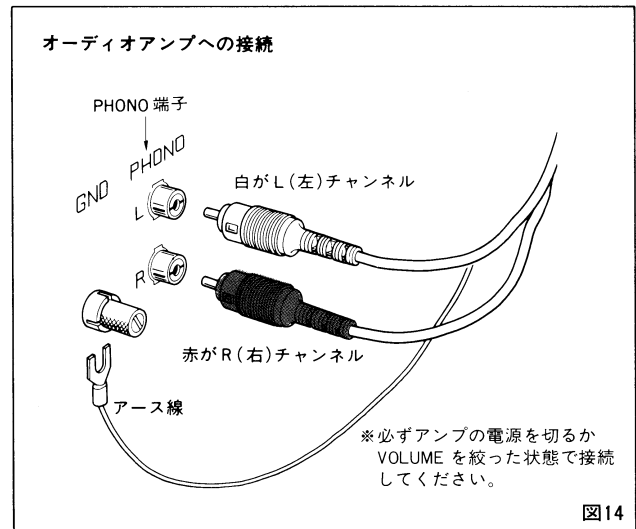


図13

アンプへの接続・レコード演奏のしかた

■アンプへの接続

1. キャビネット背面から出ている出力コードを、オーディオアンプのPHONO端子に接続します。このとき、L・Rを間違えないようにしてください。白がL(左)チャンネルで、赤がR(右)チャンネルです。(図14)
2. 出力コードから出ている黒のアーム線を、オーディオアンプのGND(アース)端子に接続します。アンプによってはアース線を接続しない方がハム雑音に対してよい結果を得ることがありますので、このような場合にはハム雑音の少ない方を選んでください。(図14)
3. 電源プラグをACコンセントか、オーディオアンプの予備電源コンセントに接続してください。



■レコード演奏の手順

本機の組み立てと調整、アンプへの接続が終わりましたら、次の順序でレコード演奏をお楽しみください。

① プレーヤー、アンプ、スピーカーの接続コードをチェックしてください。

- 電源コード→ACコンセントかアンプの予備電源コンセント
- 出力コード→アンプのPHONO端子(L・Rを間違えないように)
- アース線→アンプのGND(アース)端子それぞれ正しく接続されているかどうか確認してください。

② 接続したアンプを動作状態にします。

アンプの電源をONにし、FUNCTION(入力切り換え)スイッチをPHONOの位置にセットします。アンプのボリュームは絞っておいてください。

③ 演奏するレコードを静かにターンテーブルに載せてください。

45回転EPレコードは、付属のEPアダプターをターンテーブルのセンターシャフトに差し込んでください。

④ ターンテーブルに載せたレコードの回転数に合わせて、スピードスイッチをセットします。

⑤ キューイングスイッチを左側にセット(リフターダウンの状態)しておきます。

⑥ カートリッジの針カバーをはずします。

⑦ アームレストのロックをはずし、プレイスイッチを押すとターンテーブルが回転し自動的に動作して演奏を始めます。

※針がレコードに降りるまではアンプのボリュームを絞っておいてください。

⑧ レコード演奏

アンプのボリューム・音質を適当に調節してお聴きください。

⑨ レコード演奏が終わるとトーンアームがアップし、アームレストに戻ります。ターンテーブルの回転も止まります。

- 途中で演奏をやめたい場合は、カットスイッチを押してください。トーンアームはアップしアームレストに戻り、ターンテーブルの回転が止まります。
- 演奏を一時中止したい場合は、キューイングスイッチを操作(P. 6 参照)してください。
- リピートスイッチを押しておくと、同じレコード演奏を繰り返します。
※リピートスイッチが押された状態で、カットスイッチを押した場合、アームは1度アームレストに戻りますが、また演奏が開始されます。カットする場合は、先にリピートスイッチをもう1度押し解除してからカットスイッチを押してください。

仕様・ブロックダイアグラム

■仕様

■フォノモーター部

駆動方式……………ダイレクトドライブ
 モーター……………DC 4相 8極コアレスホールモーター
 サーボ形式……………クォーツロック
 回転数……………33- $\frac{1}{3}$ r.p.m.、45r.p.m
 ピッチインジケータ……………ロックインジケータ
 ターンテーブル

直径……………30cm
 材質……………アルミダイカスト
 重量……………1.6kg(ゴムシート含む)
 慣性モーメント……………210kg \cdot cm²(ゴムシート含む)

S/N比……………77dB以上 (DIN B
 IEC 98A WTD)

ワウ・フラッター……………0.015% WRMS(FGダイレクト)

■トーンアーム部

形式……………スイング型ストレートアーム
 アームサポート……………Y形サポート
 アーム全長……………290mm
 アーム有効長……………222mm
 オーバーハング……………16mm
 オフセット角……………23°
 水平トラッキングエラー角……………1°~3°
 針圧印加方式……………スタティックバランス・スライドウェイト方式
 0~3g、0.1gステップ

針先実効質量……………針圧比例型
 実効質量11g (針圧1.5gのとき
 カートリッジ重量含まず)

適用カートリッジ重量範囲……………2.5~10g
 アーム初動感度……………垂直10mg、水平30mg
 アームリフター……………オイルダンブ式キューイング
 アンチスケーティング……………回転操作型スプリングレバー式
 アーム高さ調整…………… \pm 2.5mm、ロックカム式
 ヘッドシェル……………20%カーボンファイバー入りレジ
 ン銀メッキ差し込み型コネクタ

重量……………2.8g

PUケーブル

容量……………100pF
 往復抵抗……………1 Ω

■カートリッジ部

品番……………CG-6700
 変換方式……………デュアルマグネット型
 針先形状……………15ミクロン(接合ダイアモンド)
 出力電圧……………2.5mV(1kHz 5cm/sec Peak45°)
 チャンネルバランス……………3dB以内(1kHz)
 チャンネルセパレーション……………18dB以上(1kHz)
 電気インピーダンス……………2800 Ω \pm 30%(1kHz)
 周波数特性……………0 \pm 3dB(10kHz代表点 1kHz基準)
 適正針圧……………2.0 \pm 0.5g
 ダイナミックコンプライアンス……………12 \times 10⁻⁶cm/dyne 100Hz
 (水平・垂直両方向)

重量……………6g

■キャビネット

外装……………BMC(Bulk Molding Compound)
 ダストカバー……………アクリックレジ
 ンヒンジ……………フリーストップ着脱型
 (40°以上開いた時に有効)
 インシュレーター……………特殊ゴム製W形折り返し型

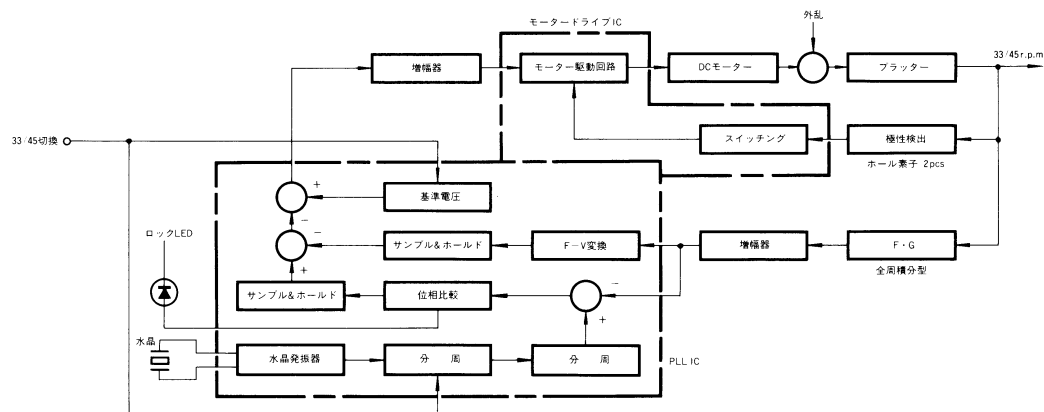
■オート機能

オートリードイン(17cm、30cm)
 オートリターン
 リピート
 カット

■総合

定格電源電圧……………AC100V
 定格電源周波数……………50/60Hz
 消費電力……………6W
 外形寸法(W \times H \times D)……………440 \times 132 \times 372mm
 総重量……………6.8kg
 ※仕様および外観は予告なく変更することがございます。

■ブロックダイアグラム



故障と思われるときには

※本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、次の事項をご確認のうえで正常に動作しない、あるいは疑問の点がございましたら、電源プラグを抜いてお買い上げ店または日本楽器各支店のステレオサービス係にサービスをご依頼ください。

症 状	原 因	処 置
PLAY(プレイ)スイッチを押してもターンテーブルが回転しない。	電源コードがACコンセントかアンプの予備電源コンセントにしっかり差し込まれていない	ACコンセントかアンプの予備電源コンセントにしっかり差し込み直してください
カートリッジを交換したときなど(ゼロ)バランスがとれない	カートリッジが重いか、または軽すぎる	カートリッジ重量適用範囲は2.5~10gです。範囲内であればウェイトを前後にずらして再調整してください
PLAY(プレイ)ボタンを押してもトーンアームが降りない	キューイングスイッチでトーンアームが上がった状態になっている	キューイングスイッチを左側へセットしてください
針先をレコード面に降ろしても音が出ない、または小さい	ヘッドシェルコネクターの接触不良	ヘッドシェルをトーンアームに正確に取り付けてください
	アンプのファンクションがPHONOになっていない	ファンクションを正しくPHONOに合わせてください
	アンプのボリュームが絞られている	ボリュームを適当な位置まであげてください
	プレーヤーの出力コードの接続不良	アンプ、リアパネルの接続端子を確認してください
カートリッジの腹がレコード面に接触する	針圧が重すぎる	適正針圧に再調整してください
	トーンアームの高さが不適当	トーンアームの高さを正しく調整してください
再生音が歪んでいて聴きにくい、または“チリ、チリ”、“パチ、パチ”という音がし、特に高音域がはずんで汚ない	プレーヤーが水平でなく傾いている	水平に設置し直してください
	針先にホコリなどが付着している	針先を針先掃除用刷毛などできれいにしてください
	針先が摩耗している	針を交換してください
	レコード自体が痛んでいたたり、ホコリやゴミがついている	レコードを新しいものと交換してください
	針圧が軽すぎるか重すぎる	使用カートリッジの適正針圧に調整し直してください
	アンプの高音をあげすぎている	高音をFLATポジションに戻してみてください
再生音がふるえたり、ハウリング(ポウーンという音)を起こして聴きにくい	プレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定で振動が伝わり共振している	しっかりした場所に移したり、スピーカーから遠ざけるなど設置場所を変えてください(特に部屋のコーナーは避けてください)
レコード演奏のとき“ブーン”というハム音が入る	プレーヤーのアース線をアンプのアース端子に接続していない	アース線をアース端子に接続してください(接続しない方がよい場合もあります)
	ヘッドシェルコネクターの接触不良	ヘッドシェルをトーンアームに正確に取り付けてください

サービスのご依頼について

●サービスのご依頼は、お買い上げ店、または日本楽器ステレオサービス係へお願い致します。

■ステレオの保証は、保証書によりご購入日から満1ヵ年です。尚、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。(日本国内のみ有効です。)

■保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か、右記、お近くのサービスネットワーク(ステレオサービス係)宛お問い合わせください。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず本文中の「故障と思われるときには」(前ページ)をお読みになってください。意外と故障でない場合があるものです。(ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障でない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただく場合もございますのでご注意ください。)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、お住まい、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(セットの具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客様にご迷惑をおかけしなさいません。)

■日本楽器ステレオサービス係への持ち込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買い上げ店、または最寄りの日本楽器ステレオサービス係へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右欄ステレオサービス係の所在地と電話番号をご参照ください。)

■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。(あらかじめ補修部品などを手配し、早く、確実にサービスにお伺いできます。)
※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■サービスのお約束

昼間ご不在のお客様や留守がちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪い時には、できるだけ早くご連絡くださるようお願い致します。(出張料の二重負担が防止でき、お徳です。)

■サービスネットワーク(ステレオサービス係)

北海道事業所・〒064	札幌市中央区南十条西1丁目(ヤマハセンター内) TEL (011)512-6111
仙台事業所・〒980	仙台市I番町2丁目6-5 TEL (022)23-3101
東京事業所・〒101	東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03)255-2241
浜松営業所・〒430	浜松市田町32(東京海上ビル5F) TEL (0534)54-4115
名古屋事業所・〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052)201-5141
北陸出張所・〒921	金沢市泉本町7-7(ヤマハ金沢センター) TEL (0762)43-6111
大阪事業所・〒550	大阪市西区江戸堀1-9-1(肥後橋センタービル6F) TEL (06)445-6421
四国出張所・〒760	高松市西宝町2丁目6-44(高松センター) TEL (0878)33-2233
広島営業所・〒731-01	広島市安佐南区祇園町西原2205-3 TEL (08287)4-3787
九州事業所・〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092)472-2151

■日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL.0534(65)1111
東京支店	〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内 TEL.03(572)3111
銀座店	〒104 東京都中央区銀座7-9-14 TEL.03(572)3131
横浜支店	〒231 横浜市中区本町6-61-1 TEL.045(212)3111
横浜店	〒220 横浜市中区南幸2-15-13 TEL.045(311)1201
千葉支店	〒280 千葉市千葉港2-1/千葉中央コミュニティセンター内 TEL.0472(47)6611
関東支店	〒370 高崎市歌川町8番地/高崎センター内 TEL.0273(27)3366
大阪支店	〒564 吹田市新芦屋下1-16 TEL.06(877)5151
心斎橋店	〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39 TEL.06(211)8331
神戸支店	〒651 神戸市灘合区浜辺通り6丁目1の36 TEL.078(232)1111
神戸店	〒650 神戸市生田区元町通2-188 TEL.078(321)1191
四国支店	〒760 高松市西宝町2丁目6-44 TEL.0878(33)2233
名古屋支店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL.052(201)5141
北陸支店	〒921 金沢市泉本町7-7 TEL.0762(43)6111
九州支店	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL.092(472)2151
小倉店	〒802 北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL.093(531)4331
北海道支店	〒064 札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター TEL.011(512)6111
仙台支店	〒983 仙台市原町南目薬師堂北2-1 TEL.0222(95)6111
広島支店	〒730 広島市紙屋町1-1-18 TEL.0822(48)4511
浜松支店	〒430 浜松市田町32 TEL.0534(54)4115
浜松店	〒430 浜松市鍛冶町122 TEL.0534(54)4111
海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・シンガポール・フィリピン

